

東京 IPO 特別コラム

2019年4月25日 Vol.145

平成から令和へ、新時代への期待高まる

この時期、桜の花から色とりどりのチューリップやつつじの花が咲き誇る季節の楊柳。四季の中でも最も皆様の思い出に残りやすい清々しい春爛漫の季節の中でもう間もなく訪れようとしている令和時代。平成時代に別れを告げ、新たな令和の時代を皆様とともにまさに迎えようとしている今日この頃です。こうした中で期待と不安が交錯する日本の株式相場は海外株高に支えられ、昨年末の調整局面を経てジリジリと上昇傾向を辿っていますが、ようやく日経平均が2万2000円台に乗せてきたという段階で、3月期決算の発表シーズンを迎えています。

さて、今年も2月22日の識学（7049）から昨日のハウテレビジョン（7064）まで24社がIPOしてきましたが、本日のトピラシステムズ（4441）、グッドスピード（7676）で平成時代の最後のIPOとなります。令和時代のIPO銘柄第1号となるのは5月30日にIPOしてくるソフトウェアテスト事業を展開するバルテス（4442・マザーズ）となります。果たして人気を集めることになるのか、注目です。筆者は先週末に既にIPO済みの23銘柄についてチェックしてみましたが、10銘柄が初値に対して上回っており、残りの13銘柄が下回っているという状況です。また、残念ながら公開価格を時価が下回っている銘柄が4銘柄あります。株価の推移が上場後堅調な銘柄は2月22日IPOの識学（7049・M）、2月26日のリックソフト（4429・M）、2月28日のスマレジ（4431・M）です。意外なところでは3月5日に上場した準大手ゼネコンの日本国土開発（1887・東証1部）が好業績割安銘柄として比較的堅調な推移を辿っています。また、3月15日のカオナビ（4435・M）が直近になって高値を更新続けており人気を集めています。このほか3月20日のギークス（7060・M）、3月28日の日本ホスピスホールディングス（7061・M）などに人気が集まっています。

一方で、KHC（1451・M・公開価格850円）は初値832円と公開価格を下回り、その後も直近になって700円割れを演じるなど人気離散となっています。また、夢真ホールディングスが比較対象となるコプロ・ホールディングス（7059・M・公開価格2090円）も初値こそ公開価格を上回りましたが、その後は安値1854円をつけるなど不人気。居酒屋チェーンのNATTY SWANKY（7674・M・公開価格3270円）も初値3930円から直近安値2980円まで調整するなど人気薄なほか東名（4439・M・公開価格3290円）も初値こそ4205円と人気を集めたものの、その後は安値2836円をつける展開が見られます。これらの4銘柄については、公開価格を時価が下回った状態が見られるなど人気化している銘柄との間に需給や業種、業績面などを加味して二極化が見られます。令和時代でのIPO相場がどうなるのかをこれからも見守ることにしたいと思います。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）